**MB&F - 17年間で20のキャリバーを開発**

**エンジンをスタート**

高級時計製造という複雑で美しい世界では、新作ウォッチが新しいムーブメントを搭載して発表されるのは非常に稀なことです。稀などころか、「常軌を逸した」と表現しても差し支えないほどのことなのです。時計業界では、新作ウォッチのために新しいムーブメントを毎年1つか2つ制作するなどというのは、まさに尋常ではないこととして捉えられます。

MB&Fが2007年にHM1エンジンとともに開始したのは、まさしくこういうことです。その後、17年間で20のキャリバーが誕生しました。最新作は2022年のLM シーケンシャル エヴォです。当初はMB&F（マキシミリアン・ブッサー＆フレンズ）の仲間内の言葉でいう「最初のフレンズ」、つまり外部のウォッチメーカーと緊密に協力していましたが、自社制作プロセスが主流となり、2014年には完全に自社開発された初のムーブメントであるLM101 エンジンが誕生しました。

アヴァンギャルドなデザインのために、すべてのMB&F マシンが備える技術的専門性について忘れてしまうことがあります。HM2やHM3「フロッグ」などの作品はサファイアクリスタルを用いた製造において進歩をもたらし、難しいことで知られるこの素材で複雑な立体的形状の実現に向けて重要な一歩を踏み出しました。パワーリザーブ表示などの小さな機能でさえ、LM1の垂直方向のパワーリザーブ表示に始まりLMXの半球状のパワーリザーブ表示に至るまで、イノベーションを示す手段となっています。

従来、MB&Fのストーリーは主に実際のマシンそのものの観点から語られてきました。マックス・ブッサーの新しい時計製造のビジョンの発端となったオロロジカル・マシン No.1（2007年）、MB&Fがその大胆なデザインに対して定評を得たオロロジカル・マシン No.3（2009年）、MB&Fの時計製造上の表現に新たな地平を拓いたレガシー・マシン No.1（2011年）、そしてカレンダー・ウォッチに新たなページを記したレガシー・マシン パーペチュアル（2015年）…。以下に記すのは、あなたがご存知のMB&Fのストーリーではありません。エンジンを切り口として語られるものだからです。

**構想から発展へ**

MB&Fのムーブメントを陰で支える社外のさまざまなウォッチメーカーは、それぞれ異なる要素をもたらしました。全体として見ると、これらの違いをもとにMB&Fのストーリーを別の視点から見ることができます。それはメカニズムの相互関連性という視点であり、マシンの別の側面に光を当てます。MB&Fを語るとき、こうした側面を理解するには、ある種の分析的思考力と時計製造の理解が必要です。

オロロジカル・マシン No.1 とオロロジカル・マシン No.4は、何気なく観察していると、あるいは比較的経験豊富な時計愛好家の目にすら、まったく似ていないように見えるかもしれません。HM1とHM4のエンジンはいずれもローラン・ベッスにより設計されていること、そしてこれらのプロジェクトは事業と財務の面でMB&F史上最大のリスクを冒すものであるとマックス・ブッサーが考えていることを踏まえると、これまで見えていなかったMB&Fマシンの側面が浮かび上がります。HM2とHM3の関係も同様です。HM2とHM3のエンジンはジャン＝マルク・ヴィダーレヒトにより設計されました。これらが国際的な時計コミュニティに立て続けに与えたインパクトにより、現代のアヴァンギャルドなウォッチの世界でMB&Fは不動の地位を確立しました。ジャン=フランソワ・モジョンが2011年から2013年にかけて成し遂げたハットトリック、つまりLM1、HM5、LM2の3連作は、MB&Fがともすれば不安定になりかねない新コレクション「レガシー・マシン」に着手した際、ブランドのストーリーの連続性を支えるものとなりました。さらに思い出しましょう。ステファン・マクドネルの才気煥発なエンジニアリング技術が、機械的な観点から見てMB&Fの中でも最も革新的な、LMパーペチュアルとLMシーケンシャル エヴォという2つの作品に活かされました。

スピリチュアルなヘリテージもあります。個々の開発プロジェクトがまとまり、関連性を持つようになるのです。最たる例は、HM4がHM6の誕生に与えた影響です。HM4が成功を収めたことにより、大胆な作品をさらに生み出す基礎が築かれました。オロロジカル・マシンとレガシー・マシンに通底して受け継がれている技術も同様です。たとえばHM7で得られた垂直方向のトゥールビヨン構造のノウハウはLM フライングTに引き継がれています。LMパーペチュアルで誕生した画期的なスプリットエスケープメント（分割された脱進機）については言うまでもありません。LM SEで中心的な役割を果たし、HM10では最新バージョンが登場しました。

マシンという切り口で見ると、MB&Fのストーリーは現代の独立系ウォッチメイキングの文化を旅するようなものです。同じストーリーをエンジンという切り口で見ると、時計製造の技術そのものと平行して進化していくさまを表す地図となるでしょう。2005年から2022年までの17年間で、MB&Fは20の卓越したキャリバーを発表しました。これは同等の他ブランドの追随を許さない開発速度です。人生を測る真の尺度は、呼吸の回数ではなく、息をのむほどの瞬間に何度出会えるか、だと言われます。よく考えてみましょう。そして17年間で20のキャリバーを生み出すことの真の意味を認識してください。今こそ、息を呑む時です。

**0から20まで**

**2007年：HM1**

最初のMB&Fエンジンは、マキシミリアン・ブッサー、そしてMB&Fのフレンズを表す2つの球体が結合した、無限を象徴するフォルムのデザインでした。このデザインは後に、時計製造の既成概念を破るビジョンを世界に示すためにMB&Fが克服しなければならなかった無数の難題を表すようになります。\*

**2008年：HM2**

HM1の待望の後継モデル。新作マシンは、それぞれ固有のデザインに加えて独自のエンジンを備えるという習わしがここから始まります。HM2 サファイア ビジョンは、その型破りなフォルムでサファイアクリスタル加工の限界を押し広げました。この素材を用いた数多くのMB&Fマシンの中でも初の作品です。

**2009年：HM3**

驚きとイノベーションに溢れるタイムピースを作り続けるMB&Fの実力が発揮されたHM3は、瞬く間にコレクターの人気をさらい、MB&Fのマシン＆エンジンの中で最も再解釈されたモデルとなっています。HM3の「フロッグ」バージョンは、カエルの「目」として必要な透明なドームを実現するために、サファイアクリスタル加工の既知の限界をさらに広げました。

**2010年：HM4**

HM1を陰で支えるムーブメントエンジニア、ローラン・ベッスと再び協働。MB&Fエンジンが、ムーブメントに対して縦に時間表示を配して組み込んだのは初めてのことです。この技術はHM6、HM9、さらには傾斜を持たせた文字盤を備えるLM フライングTやLM サンダードームといったマシンでさらに洗練されていきます。アーチ型のサファイアクリスタルの窓をマシン上部に2つ備え、寸分の隙もない精巧な仕上げが施されたウォッチが、高級時計製造の既存の限界を再び塗り替えました。

**2011年：LM1**

MB&Fの新しい方向性を示すLM1は、伝統的ムーブメントを意識し、その美しいフォルムと仕上げに倣って構築した初のマシンとエンジンです。実用主義的な産業界でのキャリアも持ち、素晴らしい創造性にあふれる時計師、ジャン＝フランソワ・モジョンが開発に参加しました。ムーブメントの仕上げに用いられる高度な水準は、時計職人カリ・ヴティライネンが設定しました。宙に浮くようなエスケープメントと垂直のパワーリザーブが初めて採用されました。

**2012年：HM5**

光学クリスタルを初めて使用し、時と分のディスクがムーブメントに対して平行ではなく垂直に配されているような（物理的に不可能な）錯覚の効果を生み出しました。オロロジカル・マシンのサブジャンル「Automotive（自動車）」の最初の作品です。このジャンルには後にHMXとHM8が加わりました。

**2013年：LM2**

ジャン＝フランソワ・モジョンによるMB&Fエンジン三部作の最終作であり、2つのエスケープメントを持つ最初のエンジンです（ダブルエスケープメントを備える構造はその後、HM9に踏襲されました）。

**2014年：LM101（自社開発）**

MB&Fが一貫して設計と組み立てを行った最初のムーブメントとして記念碑的なエンジン。MB&F最小のエンジンであるLM101は、他のマシンとは異なり、文字盤のレイアウトをアシンメトリーにしたことでその個性がさらに際立っています。同時にMB&Fが社内に有する設備のプロトタイプ製作能力や機械加工機能も向上していきました。

**2014年：HM6**

MB&Fは初めて1年に2つのマシンをリリースしました。HM6ではトゥールビヨンが復活。これに先立つトゥールビヨンウォッチはHM1でした。小径のサファイアクリスタルのドームとスライド格納式のチタン製トゥールビヨンシールドを機械加工するために、高度な製造技術が採用されました。HM6 サファイア ビジョンとHM6 エイリアン ネイションは、現代の時計製造において最も難しいサファイアクリスタルの形状で、複数のドームを備える一体型コンポーネントとして登場しました。

**2015年：HMX（自社開発）**

2005年7月創業のMB&F設立10周年を記念して、MB&Fコレクター（「Tribe（部族）」として知られる）による長年にわたる支援に謝意を表するために、HMXが手頃な価格のマシンとして開発されました。セリタ（Sellita）社製品をベースに自社開発されたモジュール。

**2015年：LM パーペチュアル**

MB&Fが1年に2つのマシンをリリースするのは2度目であり、ステファン・マクドネル（HM1に命を吹き込むのに重要な役割を果たしました\*）が初めてエンジンを開発。このエンジンには革新的な技術を取り入れた「機械式プロセッサー」が含まれ、パーペチュアルカレンダーが従来持つ構造を抜本的に見直しています。スプリットエスケープメント（分割された脱進機）が初登場し、その後LM SEとHM10に採用されました。

**2016年：HM8（自社開発）**

LM101とHMXに続くMB&Fの3番目の自社製エンジン（ジラール・ペルゴ社製品ベースのモジュール）であり、HM5とHMXに続く、自動車にインスパイアされたもう1つのオロロジカル マシンです。外観は異なるものの、共通のベースキャリバーを使用しているためHM3に連なるものです。

**2017年：HM7（自社開発）**

MB&Fの完全自社製エンジン（外部調達のベースのキャリバーなし）として、LM101に続く第2番目の作品。横方向に配されるムーブメントの常識から逸脱して、HM7エンジンは垂直軸上に構築されています。このウォッチを建築に例えるなら、バンガローではなく超高層ビルに相当するでしょう。MB&Fの3番目のトゥールビヨンで、LM フライングT（2019年）の制作に要した専門技術の集大成となっています。HM7 プラチナレッドは時と分のリングが取り除かれ、発光塗料を塗布したマーカーがエンジンに直接取り付けられるため、組み立て技術とエネルギー伝達にさらなる改良が求められました。

**2017年：LM SE**

LMパーペチュアルとともに華々しく登場したスプリットエスケープメント。超絶的な技術を要するこのコンポーネントは、ピュアな外観を損なわないように複雑機構は他に何一つ加えられていません。

**2018年：HM9（自社開発）**

それまでは社外で開発されたエンジンのみで使用されていた、垂直の時表示（HM4、HM6）とダブルエスケープメントシステム（LM2）の2つの技術を自社内に統合した、画期的なエンジン。MB&Fが長年にわたって取り組んできた、サファイアクリスタルの加工の可能性を広げるための継続的な努力が実を結び、HM9サファイア ビジョン バージョンは、MB&F史上最も効果的でインパクトのあるフルサファイアケースを特徴としています。

**2019年：LM フライングT（自社開発）**

HM7を踏襲するメカニズムとして、フライングトゥールビヨンを搭載し、同様の垂直構造のムーブメントを備えます。マックス・ブッサーとパーソナルかつ親密な接点を持つマシンでもあります。太陽の形をした巻き上げローター、ステージ上でクルクルと舞うバレリーナを想わせる円柱形のムーブメント、傾斜を持たせた文字盤など、彼の家族の女性たちから影響を受け、そのインスピレーションがエンジンに盛り込まれています。

**2019年：LM サンダードーム**

トゥールビヨンとカルーセルの機能を組み合わせた独自のメカニズム「トライアックス（Tri-Ax）」を備えた、当時の時計製造では最速の回転式エスケープメント。非常に難解かつ洗練を極めるメカニズムのパイオニアであるエリック・クドレにより生み出されました。レガシー・マシンの仕上げ基準に頻繁に関わるカリ・ヴティライネンは、彼独自の仕上げを角穴車に施し、門外不出だったこの技法を彼自身の時計以外に使用することを初めて許可しました。

**2020年：HM10（自社開発）**

完全に自社製のエンジンであり、外部で開発されたエンジンで以前に使用されていたいくつかのメカニズムの機能を象徴的に再現しています。HM10と同様に、回転する時間表示ドーム（HM3）、垂直パワーリザーブ（LM1）、スプリットエスケープメント（LM パーペチュアル、LM SE）は、今やMB&F独自の時計製造技術の一部となっています。LM サンダードームの技術的な功績、そしてLM フライングTにおいてなされた深くパーソナルな探求に続いて、HM10は完璧なムーブメントをベースにしつつも奔放で楽しいものへと回帰しています。

**2021年：LMX（自社開発）**

究極のLM1とされるLMXは、レガシー・マシン10周年を記念する作品です。LM1の2つの時刻表示と縦方向のパワーリザーブ表示が復活しますが、さらに洗練が加えられています。2つの文字盤はLM フライングTとLM サンダードームのスタイルに倣って傾斜がつけられ、垂直方向のパワーリザーブは半球の形をしており、主ゼンマイの巻き上げレベルを立体的なディスプレイで表示します。

**2022年：LM シーケンシャル エヴォ**

ステファン・マクドネルが手がける2番目の強力なエンジンであり、MB&F初のクロノグラフムーブメントです。エンジン内の両方のクロノグラフメカニズムを操作する革新的なプッシュボタン「ツインバーター」により、LM シーケンシャル エヴォは、従来は不可能だった方法で経過時間を計測することができます。クロノグラフの内部に宝石を埋め込んだクラッチシャフトを組み込み、クロノグラフの作動時・非作動時ともに振幅が損なわれることはありません。

\* フルストーリーは公式カタログ レゾネ『MB&F：The First Fifteen Years』（2022年）をご覧ください。